

お正月の寄贈品コーナー

くらしの中の火

2013年1月4日（金）～1月30日（水）



行灯のあかり

昨年末まで開催した特別展「くらしの今昔」の中から、火に関する部分をクローズアップした展示です。夜を明るくし、冬に暖まり、ご飯を炊き魚を焼き、お風呂をわかし、濡れたものを乾かす。電気が使えるようになる前、こうしたことはすべて火を用いておこなっていました。油を燃やして明かりをともし、ガスがなければ炭や薪をくべて暖をとり、麦わらを焚いてご飯を炊きました。

人が生きていく上で絶対に必要なもの、それは水と火と食料です。現代は便利な電化製品が普及し、庭で自由に焚き火もできなくなり、暮らしの中からどんどん火が遠ざかっています。

大切な燃料であった山の木や落ち葉も顧みられることはありません。原発に代わる再生可能エネルギーの開発は喫緊の課題ではありますが、かつてのように木材をはじめとする植物資源をエネルギーとして活用するしくみをつくることはできないのでしょうか。行灯、火鉢、炭火のこたつなどの展示をとおして、火の役割についてあらためて思いをめぐらせてみてください。